令和６年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 大戸 小学校 ）　　学校番号　０８１

【様式】

目指す学校像	【かしこく】自ら考え正しく判断する児童が集う学校　【やさしく】やさしさと思いやりのある児童が集う学校 【たくましく】健康でたくましい児童が集う学校

重点目標	１　個別最適化を念頭に取り組む確かな学力の育成と、本校のSTEAMS教育の推進 ２　リフレッシュ工事期間において取り組む「心と体を育む教育活動」の工夫 ３　大戸小コミュニティー・スクールの理念の共有と、地域とともにある学校づくりの推進 ４　ＩＣＴ機器活用実践の推進と、キャリア段階を踏まえた教師力の伸長

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和　　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査では、国語・算数ともに全国平均をやや下回った。特に国語では表現力が、算数ではデータ活用場面が苦手である。 ○日頃の学習態度を見ると、真面目な取組の児童が多い。 ○各学級に、集団での学習に難しさをかかえ、個別支援が有効と考えられる児童が在籍している。 〈課題〉 ○解答にあたり「無回答率」が高いこと。 ○個別最適化した学習の提供と個に応じた学び。	・個別最適化を目指した授業改善	①本校児童の課題の一つである「データ活用能力の育成」には、タブレットのによる個別最適化された学習を行う。 ②個別学習により学習効果を期待できる児童に対し、ＩＣＴを活用したスタディサプリ等の学習を継続する。	①全国調査の結果をもとに児童が自己の弱点を理解した学習感想が書けたか。担任が解説授業を１時間実施したか。 ②スタディサプリを活用し、教師支援のもと、児童が各自の課題を解決する学びができたか。				
		・本校の実態や発達段階に適した STEAMS 教育の実践	①タブレットの活用を通して、自己の考えを表現する機会や方法を多く体験し、無回答率を減らす。 ②児童の発達段階や興味・関心に応じた STEAMS 学習を計画し、マイクロビットやマインクラフトなどを活用する。	①学習状況調査において無答率が１０％減少したか。 ②本校独自の STEAMS 学習の実践が各学年１つ以上行えたか。				
2	〈現状〉 ○現在令和８年度完成を目指したリフレッシュ工事期間中であり、年度途中での校庭利用制限、解体に伴う騒音・振動が常時ある。 ○登下校の見守りは、保護者、自治会をはじめとするボランティアの方々等の協力が充実している地域である。 〈課題〉 ○様々なストレスが、児童を取り巻いている事に留意し、家庭や地域との協力、関係諸機関との連携に努め、教育相談・生徒指導を組織的に支援する。 ○工事を含めた施設設備の安全点検を教職員が徹底するとともに、児童にも危機回避能力をつける指導をすることが引き続き求められる。	・リフレッシュ工事期間に日々変わる利用可能な教育環境を踏まえた安全・安心な教育活動の推進	①常に安全に学習が進むように、大戸ルールの徹底を図るとともに、登下校時の教職員の安全指導により自ら危機管理のできる児童を育成する。 ②学校地域連携コーディネーターや管理職が地域諸団体と良好な関係をもち、児童の教育活動にあたる。	①学校評価において、安全に関連する教職員のアンケート結果が、８８％以上肯定的になったか。 ②登下校指導や地域の安全に関する活動に、職員が少なくとも年間１度は参加し、協働できたか。				
		・個に応じた教育相談、生徒指導体制の充実と関係諸機関との連携	①アンケートやスクールダッシュボード日々の見取りなどによる児童理解に努め、信頼関係に立つ支援体制を整える。 ②SC や SSW と連携し、児童・保護者に対する支援を積極的に行う。その場合、全教職員で情報共有につとめ、チームとして支援にあたる。	①毎月実施する生徒指導、教育相談の２部会において情報交換が適切に行われ、指導後の見守りまで完遂したかどうか。 ②関係諸機関との連携が、児童、保護者のためにタイミングを逸することなく行われたか。				
3	〈現状〉 ○学校運営協議会は、実施３年目を迎え、スローガンの作成と、地域一体で児童生徒の育成にあたる方針の周知を進める段階にある。 ○地域の活動の多くが再開される中、児童のために、働き方改革も踏まえた持続可能な学校のかかわり方を検討している。 ○地域コーディネーターが中心となり、地域とともにある学校の広報活動や調整を進めている。 〈課題〉 ○アンケートの結果「あいさつ」について地域の方からの評価が低い点を引き続き改善する。 ○学校運営協議会での熟議を通して、「スローガン」の作成まで来ている。今後はその周知に関する具体的方策を定め、地域、保護者に周知する。	・挨拶ができることのよさに気付き、校外でも挨拶のできるような児童を育成する取組。	①管理職や教員が朝の登校時に昇降口や通学路に立ち、あいさつを励行する。TPO に合わせた挨拶ができる児童を目指す。 ②本校 HP 内の充実を図り、平均月６回ペースで更新をすることで、関心を持ち続けてもらう。	①児童会を中心に、本校の課題である「学校外でのあいさつ」を励行し、登下校の安全確認や外部の方との関係構築も含め「あいさつ」が出来たか。 ②学校評価のアンケートであいさつに関わる項目で８８％の肯定的回答を得られたか。				
		・学校、保護者、地域が一体となって児童の育成に取り組むための指針をコミスクで共有化するための取組	①学校運営協議会をスムーズに開催し、そこで目指す児童像についてのスローガンについて熟議を行う。結果は学校 HP や学校だよりで発信する。 ②作成したスローガンや承認されたグランドデザインを基に、行事の計画や具体的方策を定める。	①学校評価に係る「児童」「保護者」「教職員」アンケートで、児童の成長を感じられる項目において、５ポイント以上の改善成果がえられたか。 ②年３回の学校運営協議会が計画通り開催され、その内容を HP 等で広報できたか。				
4	〈現状〉 ○タブレットや ICT 機器を用いた授業について、エバンジェリストや情報主任を中心に研修してきた。 ○５，６年生の教科担任制を進めている。 ○キャリアⅠの教職員に校内研修会を実施した。 〈課題〉 ○教科担任制を生かして、次年度も使えるシラバスを作成すること。 ○２年～６年でスタデイサプリを導入し、家庭でも効果的に使えるように教職員の研修会を継続する。 ○ICT 機器の利用頻度が低いと感じる児童が多い ○児童用タブレットの修理期間が長い。 ○教職員の後任を育て大戸小の良さを継承する。	・タブレット研修会の定期的な実施	①ICT に関する研修を学校課題研修に位置づけ、校内研修を月２回のペースで実施する。 ②教科担任制にいち早く取り組んだデータを活かしたシラバスの作成を継続し他校へも情報提供をする。	①全ての教職員がタブレットの機能を理解し、児童の個別最適な学習のツールとして日常的に活用するようになったか。 ②中央区校長会において、教科担任制の本校の今年度の取組みのまとめを情報提供できたか				
		・キャリアⅠの教職員に自主的な研修を促し、キャリアⅢの教職員が参加することで教師力の継承を図る	①キャリアⅠ教職員の自主研修にキャリアⅢの教職員が学期１回程度参加し、指導する。 ②ICT 機器の利用を促進するために、大戸小の児童に効果的な場の設定に関する教職員研修を夏季休業中に実施する。	①キャリアⅠの教職員の自己評価シートにおいて、「学級づくり」や「学習指導」の項目で教職員自身が成長したという自己評価が、記述内容に表れたか。 ②ICT 機器の利用頻度について昨年度比１２０％を達成したか				